

平成 2 6 年度帰国報告会

**シンガポール日本人学校チャンギ校
実践報告**



スクール後に虹が架かったチャンギ校

藤市立中央東小学校 小林 純志

1 シンガポールの概要

(1) 国名

シンガポール共和国（通称シンガポール）は、東南アジアのマレーシアに隣接するシンガポール島（本島）と周辺の島々を領土とする共和制国家。国名はサンスクリット語で「獅子」を意味する「シンハ（simha）」に由来する。

かつて第二次世界大戦で交戦国イギリスの領土であったシンガポールを占領した日本は「昭南（島）」と命名していた。



(2) 地理

東南アジアのほぼ中心で、赤道直下に位置する。北のマレー半島（マレーシア）とはジョホール海峡で隔てられており、マレーシアとは経済交流も盛んである。シンガポール・チャンギ国際空港は本島の東端に位置する。また、本島の南に隣接するセントーサ島は、リゾート地としての開発が進んでいる。国土面積は東京23区とほぼ同じ広さである。国土の最高地点は本島にあるブキツ・ティマ山（163 m）。チャンギ校では5年生が校外学習に出かける。

(3) 交通

本島は交通網が発展しており、市内中心地からは高速道路を利用すると、1時間足らずでどこへでも行くことができる。だが、車の所有には多額の税金がかかり、マーチ1台につき500万、通常セダンで1000万が相場といわれている。そのため、派遣教員の車所有者はついに0人となった。

車所有が困難な反面、公共交通機関はMRT（地下鉄）、バスなどは安価な上に、本島全体を網羅し充実している。価格は最大でも2.9シンドル（日本円で約250円）。また、タクシーも安価で、初乗りが約3シンドル（日本円で約250円）。市内からチャンギ校に通勤するために毎日乗り合わせて通勤する職員もいる。「バス電車利用で1時間30分の通勤時間が、500円程度で30分に短縮できるのはありがたい」と同僚は話していた。

(4) 気候

シンガポールは赤道直下に位置するため、一年を通じて高温かつ多湿である。気温は年間を通して、28度から32度。日本のような猛暑はなく、日陰に入れば涼しい風も吹いてくるので過ごしやすい。雨季と乾季の区別ははっきりしないものの、北東モンスーンの影響により、11月から3月にかけて降水量が多い。この時季は、雨季ともいわれるが、日本のように一日中雨がしとしとと降るというわけではなく、雷とともにどしゃ降りの雨が短時間に降ることが多い。

乾季には、隣国インドネシアスマトラ島の焼畑農業や山火事の煙が流れ込み、煙霧になることがある。昨年8月は特にこの煙霧被害が大きく、日本人学校が休校するまでに至った。

2 シンガポール日本人学校の概要（平成26年度4月現在）

（1）沿革

①補習校時代

シンガポールに、初めて日本人のための学校ができたのは、今からおよそ100年ほど前の1912年。しかし、1941年には、第二次世界大戦のために閉校を余儀なくされた。その後、1964年に、再び国語と算数の補習授業が始まった。同時に、全日制日本人学校設置のための活動が活発に行なわれていた。



補習校時代の校舎

②ダルベイエステート校（1966年9月3日-1968年3月）

教員3名、児童数27名で開校。この時にシンガポール政府より、私立学校として正式に認可された。このころは、学校の勉強の道具もまだまだたりず、教員やPTAの皆さんがずいぶん苦勞したといわれている。

③スイスコテージ校（1968年4月-1971年7月）

④ウエストコースト校（1971年8月-1975年3月）

⑤クレメンティ校（1975年4月-1995年3月）

⑥三校体制時代（1995年4月-現在）

1984年に小中学部の校舎を分離し、中学部校舎を新築・移転。1995年、小学部は児童数増加のためチャンギ校舎を新築し、小学5・6年生はチャンギキャンパスに移り、日本人学校は三校体制になった。

1998年、小学部において学区制を敷き、完全二校体制になった。



1995年に完成したチャンギキャンパス

(2) 児童数・学級数・教員数等

①児童数 834人

②学級数 30クラス

③教員数 日本人スタッフ 45名

(文科省派遣・財団派遣・現地採用・専任採用)

英会話スタッフ 14名

イマージョン水泳 4名

イマージョン音楽 2名

昨年4月より、児童数は45人増え、学級数も1増でスタートした平成26年。年間でおよそ100人から150人が学校を去り、新しい編入生も昨年度は200人を超えた。

ピーク時には1000人を越えたチャング校も、リーマンショック後は700人程度を推移していた。しかし、昨年あたりから徐々に児童数が増加の傾向にある。そのため、即戦力のある教員の確保が大きな課題となっている。

わたしが派遣された23年度はどの学年団も4人中3人が文科省派遣の教員だった。また、約9割の教員が10年以上の教員経験を有していた。ところが26年度は、経験年数10年以上の教員が5割を切った。大きな原因は、文科省が派遣教員数を減らしたこと。それに伴い、日本からの専任採用を増やしたことにある。

専任採用とは、シンガポール日本人学校が独自に採用する教員である。その多くは、臨時的任用の教員や新卒者である。彼らは、経験不足や慣れない海外での生活のために、相当な心労を抱えながら1年間の職務を遂行している。現在チャング校では、子ども達を育てると共に、若手教員の育成にも学校独自の研修方法を見いだしている最中である。

(3) 英語教育

①チャング校の英語教育の目標

「日常生活で自然に英語が使えるようになる」

②習熟度別クラス

この目標を達成するため、英会話クラスを12段階習熟度別に設定している。12段階になることにより、1学期間に学習する単元が増え、たくさんの表現方法を学習し、日常生活で英語が使える子どもたちが多くなるよう授業を展開している。

毎学期に学習到達度・四技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）を考慮し、クラス編制を行っている。イングリッシュスタッフは児童の毎日の取り組みの様子から、児童の習熟度に合った適切なクラスを判断する。新入生や編入生には最初の数回の英会話の授業で個人面接を行い、それぞれの児童に応じたクラスが決定する。

③英会話教科書・ワークブックについて

チャンギ校では E 1 1 から E 1 まで英会話の教科書・ワークブックを使用して学習を進めている。これらの教科書は E 1 1 から E 2 まで同じ教科書にて学習を進めるため、クラスが変更した場合でも同じ教科書・ワークブックを使用できる。英会話クラスで使用する教科書は海外から取り寄せて5月当初に学校で販売している。

④1年生、5・6年生の特別授業

《1年生》 フォニックス

1年生は週1回、フォニックスの授業を行っている。フォニックスを学ぶことにより「英語の音と綴り方のルール」を学習している。フォニックスを習得することにより、英単語の綴りの75%を読めるようになることを目標としている。また、学習した内容の定着を目的に宿題もある。日々、子どもたちの読める英単語が増え、道端の英語表記のサインが読みたくなるような授業展開をしている。

《5・6年生》 英文法

基本的な英文法を学習し、英文を読んで楽しめるようになること、簡単な英作文ができるようになることを目標としている。授業では学習を通して、自分たちの伝えたい事をまとめる表現の練習も行っている。

3 国際理解教育の実践

(1) はじめに

シンガポールに住んでいるからこそできる学習、シンガポールに住んでいなければできない体験を子どもたちにさせてあげたい。そういう思いからチャンギ校ではそれぞれの学年が工夫をこらした様々な体験学習を行っている。その中から今回は自身が指導した、2年生の「チャンギビレッジ探検」の学習活動をまとめる。

(2) チャンギビレッジ探検（2年生）

チャンギ校の2年生は、チャンギ校近くの身近な地域、チャンギビレッジの探検に行った。本校では、日本以上に校外学習を行う必要性を感じた。それは、事前のアンケートから分析できた。2年生の子どもたちのアンケートでは、来星して1、2年（約40%）という家庭が最も多いことが分かった。子どもたちの下校後の遊び場所は、家の中やコンドミニアム内（約90%）が多く、平日は日本人の友だち（100%）と遊ぶなど、日本人社会の中で生活している子がほとんどだった。また、普段の買い物は、日系のお店（約60%）や近くのスーパー（約70%）を使うことが多く、ウェットマーケットの利用は無いという結果だった。さらに、1週間以内に公共のバスを利用したことのある子どもは数名だった。これらの結果から、子どもたちは狭い日本人社会の中で生活をしていて、シンガポールの人々や生活に触れる機会がほとんどないという分析結果がでた。チャンギビレッジには HDB やホーカー、ウェットマーケットなどがあり、小さな商店もたくさん

ある。また、中華系、マレー系、インド系の料理を味わえるお店もある。チャンギ校からは、公共のバスを利用し、約15分で到着する最終地点で、普段子どもたちが体験することのない異文化を存分に味わえる場所である。現地での活動は2回実施した。

① たくさんの「何だろう」を発見

1回目の探検の合い言葉は「何だろうをたくさん見つけよう！」だった。子どもたちはデジタルカメラとメモ用紙を片手に、次々と「何だろう」を見つけていった。「七色のパンのような食べものは何？どんな味？」「不思議な色の飲みものは何？どんな味？」「道の端に置かれた線香は何？」「お店の前にある機械は何に使うの？」等、たくさんの「何だろう」を見つけた。もちろん、解決できそうなことは、お店の人に質問しながら見学した。

② ローカルフードを体験

2回目の探検では、一人\$3のお小遣いを持って活動した。2回目の目的は、このお小遣いを使い「シンガポールならではの食べものを食べよう！」というもの。「ロティプラタ」や「チキンライス」、「フィッシュボールヌードル」をはじめ、「シュガーケイン」、「ハニーデュー」等の飲み物を注文した子どもたち。また、味比べをするために、2店からエッグタルトを注文した子どもたち。2件目のホーカーでは待たされること10分。出てきたのは、1件目のお店のエッグタルト。このお店ではエッグタルトは作っておらず、店員さんはいつも離れたお店に行っているとのことだった。シンガポールではよくあること！？

(3) 実践を通して




シンガポールに住んでいても、現地の人々や生活に触れる機会が少ない子どもたち。しかし、今回の活動を通して、シンガポールを身近に感じ、たくさんの秘密を発見した。この2年生の体験をもとに、3年生のウエットマーケット見学、4年生のシンガポール探検へとステップアップしながら、シンガポールの文化に親しみや愛着をもつことができればと思っている。



チャンギビレッジ探検の報告会の様子

いくぞ！チャンギビレッジたんけんたい カード

たんけんした日 11月2日 名前 中村にの


絵	はなまきやさん	パンやさん	マフィンやさん
			

文

で	を	が	が	が	の	い	ん	水	あ
つ	わ	そ	ん	ん	ま	ま	げ	暗	な
ま	の	れ	か	か	し	し	ん	日	し
き	に	そ	が	あ	た	し	に	に	は
に	せ	れ	が	あ	し	し	に	に	は
し	て	そ	が	あ	の	の	に	に	は
つ	ま	シ	パ	と	パ	に	ま	チ	ナ
ま	ン	ン	ン	同	ン	パ	ン	ン	一
ん	が	を	を	を	ン	ン	ン	ン	日
を	ボ	が	が	が	ン	ン	ン	ン	ニ
し	ル	さ	で	で	ン	ン	ン	ン	十
ま	モ	さ	か	か	ン	ン	ン	ン	年
し	ダ	し	い	い	ン	ン	ン	ン	の
た		ら	い	い	ン	ン	ン	ン	

いくぞ！チャンギビレッジたんけんたい カード

たんけんした日 11月2日 名前 池田ひな

絵			
---	--	--	--

文

り	う	パ	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
つ	ま	ン	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
ま	ン	ン	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
き	ン	ン	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
に	ン	ン	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
に	ン	ン	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
し	ン	ン	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
つ	ま	ン	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
り	う	パ	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
が	う	ン	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
う	ン	ン	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
っ	ン	ン	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
て	ン	ン	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
い	ン	ン	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
る	ン	ン	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
お	ン	ン	タ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ

探検後の子ども達の感想

4 まとめ

シンガポールは、多民族国家でありながら大きな紛争や内戦等がなく、平和で穏やかな国である。多くの国民は、外国人を歓迎し、日本人にもとても親切に接してくれる。また、とても勤勉で学習意欲が高く、街をきれいにしたり、順番を守ったりするなどモラルもしっかりとしている。これは、シンガポール政府の教育の賜であり、シンガポールから学ぶべき点は多くあると思う。

昨年訪問した現地の小学校には、昔のシンガポールの町並みを見事に表現したレプリカが飾られていた。日本の小学校でこのような物が手の届く範囲に置いてあったならば、いたずらや紛失に会うこともしばしばだと思う。しかし、この学校ではそのような心配は一切していないそうだ。その理由を聞いたら、「もしもここにいたずらをしたら、それは国や先人に対する犯罪で、とても愚かな行為だ。」とスタッフが答えてくれた。シンガポールは教育に力を入れ、「人が資源」とまで言われている。そんな国のすばらしさ、愛国心を垣間見た瞬間だった。

帰国後も、この国で学んだ教育の奥深さや多様性を活かして教育活動に励んでいきたい。